

学認のサービスが応える医療系大学のニーズ

学生・教職員の期待に応え、電子ジャーナルサービスの利用環境を充実 東邦大学

複数の Web サービスを共通の ID とパスワードで利用でき、それらのサービスを学内からはもちろん、自宅や出張先、実習先からでも利用できる環境を構築。学生や教職員に、より快適で便利な環境を提供できる情報インフラを実現した。

課題

本学では複数の電子ジャーナルサービスやデータベース個別に契約しているため、利用はサービスごとに発行される ID とパスワードを使い分ける必要があった。しかも、これらのサービスは学外からの接続に対応していない場合も多い。学外からの接続は申請があれば個別に対応していたが、その場合、利用できるサービスが制限されたり、利用者ごとの使用状況の把握も難しいなど、課題が多かった。そこで複数ある ID・パスワードを一組の共通の ID・パスワードにまとめるとともに、学外からも自由に電子ジャーナル等を利用できる環境の整備への取り組みを始めた。

解決策

複数の ID を統合し、学外からの電子ジャーナル等の利用を実現するために注目したのが、Shibboleth を活用したシングルサインオン (SSO) 環境の実現である。本学では、以前から国立情報学研究所 (NII) が提供する SSL 証明書サービスを利用しており、今回の SSO 化においても NII が提供する学術認証フェデレーション (学認) の認証連携の活用を検討し、導入を決定した。特に Shibboleth を採用する学認との連携では、認証結果を利用者ごとにサーバに記録することができ、誰がいつ、どのくらいの頻度で電子ジャーナルを利用したかという利用状況を把握できるのもメリットであった。これにより、サービスの利用状況さえ把握できなかった今までの運用方法と比べて、今後は利用動向を詳細に把握でき、ニーズを先取りした質の高いサービスの提供も可能になる。

このように、学認への参加を通して実現した SSO は、既に LDAP による認証を導入した本学ではシステム側の負担増や大きな問題もなくスムーズに利用が進んでいる。学内で独自に構築した学術ポータルサービス「MyOPAC」との連携も順調である。

今後、Shibboleth に対応するサービスの拡充や、サービスが要求する認証情報の増加によるシステム側の負担増も予想されるが、いずれも対応可能な範囲に収まると予測している。

結果

本学における Shibboleth 対応が本格的に運用を開始したのは 2010 年 7 月からで、以後利用者も順調に増えている。今後は、利用履歴の分析を通して利用状況を正確に把握し、電子ジャーナル等の契約規模の見直しや、利用していない学部の学生への利用促進を行うなどして、利用者サービスの向上も積極的に進めていく予定である。

本学のような医療系の学生・教職員が購読する電子ジャーナルの多くは早くから電子化が進んでおり、これらのサービスの SSO 化は本学の学生や教職員の利便性の向上に必要不可欠である。特に本学では実習を必要とする科目も多く、実習先や自宅など、学外から電子ジャーナルを参照できる環境を学生や教職員に提供する意味は大きい。これにより、実習先での経験をその日のうちに電子ジャーナルの記事と比較・検証したり、参考文献を踏まえて実習に参加することが可能になる。

医療系大学の学生・教職員に、利便性の高い電子ジャーナルサービスの充実を図るためにも、今後も利用可能なサービスの拡充に計画的に取り組む予定である。

(東邦大学 ネットワークセンター 前田 清高)

